

審査メモで示された論点に対する回答（その3）

(H30.10.18 農林水産省 大臣官房統計部 経営・構造統計課)

1 農業経営統計調査の変更

(3) 報告を求める事項の変更

ウ 生産費調査票関係

(カ) 対象品目の生産のために使用した資材等を把握する調査事項【全ての生産費調査票（農畜産物の種類に応じた調査事項を設定）】

農畜産物を生産する農業経営体（個別経営体及び組織法人経営体）における農畜産物の生産のために使用した資材等の状況を明らかにするため、①種苗の使用数量・購入金額、②肥料の使用数量・購入金額、③飼料の使用数量・購入金額、④農業薬剤の購入金額、⑤種付料等、⑥敷料の購入金額等、⑦光熱動力の購入金額・使用数量、⑧獣医師料及び医薬品費、⑨草地費、⑩賃借料及び料金、⑪その他資材の使用量・金額等を把握する調査事項を再編する。

【米生産費調査（個別経営体用）の場合】

1 種苗費

当年産の食用米生産のために使用した種子及び苗について記入してください。
 なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

・食用米のみの使用分を記入する場合は、100（%）としてください。
 ・食用米以外の使用分を含めて記入する場合には、作付面積の割合を目安に記入してください。

(1) 種子

品 種 名 等	数 量 (kg)	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
(計)	万 千 百 十	万 千 百 十	
購 入			
自 給			

浸種の場合の減耗分や不
発芽による二度まき分につ
いても含めて記入してくだ
さい。

使用した自給の種子
の品種名と数量を記入
してください。

・食用米のみの使用分を記入する場合は、100（%）としてください。
 ・食用米以外の使用分を含めて記入する場合には、作付面積の割合を目安に記入してください。

(2) 苗

品 種 名 等	植 え 付 け た 面 積 (a)	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
(計)	ha a	万 千 百 十	
購 入			

【3】食用米の生産のために使用した資材等（続き）

2 肥料費

当年産の食用米生産のために使用した肥料について記入してください。
 なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

・食用米のみの使用分を記入する場合は、100（%）としてください。
 ・食用米以外の使用分を含めて記入する場合には、作付面積の割合を目安に記入してください。

資 材 名 等	数 量 (kg)	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)	備 考 欄	
購 入	窒 素 質 肥 料 (計)	万 千 百 十	万 千 百 十		
	り ん 酸 質 肥 料 (計)	万 千 百 十	万 千 百 十		
	カ リ 質 肥 料 (計)	万 千 百 十	万 千 百 十		
	け い 酸 質 肥 料 (計)	万 千 百 十	万 千 百 十		
	炭 酸 カ ル シ ウ ム (計) (石 灰 含 む 。)	万 千 百 十	万 千 百 十		※融雪剤として使用した分は「5諸材料費」に記入してください。
複 合 肥 料 (計)	万 千 百 十	万 千 百 十			
土 壌 改 良 資 材		万 千 百 十			
た い 肥 ・ き ゅ う 肥					
そ の 他 (計)				微生物資材、液肥、農薬入り肥料、ペースト肥料、苦土質肥料、微量要素肥料、有機質肥料など	

2 肥料費（続き）

当年産の食用米生産のために使用した肥料のうち、自家で生産した肥料について記入してください。

資 材 名 等		数 量 (kg)				食用米 負担割合 (%)
		万	千	百	十	
自 給	た い 肥					
	き ゆ う 肥					
	稲 ・ 麦 わ ら					
	そ の 他					

- ・ 食用米のみの使用分を記入する場合は、100 (%)としてください。
- ・ 食用米以外の使用分を含めて記入する場合には、作付面積の割合を目安に記入してください。

注：稲・麦わらは、前作の収穫後にほ場に放置し、そのまますき込んだ分を除いて記入してください。

3 農業薬剤費

当年産の食用米生産のために使用した農業薬剤について記入してください。

なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

資 材 名 等	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)	備 考 欄
	万 千 百 十		
殺 虫 剤 (計)			
殺 菌 剤 (計)			
殺 虫 殺 菌 剤 (計)			
除 草 剤 (計)			
そ の 他 (計)			殺鼠剤、植物成長調整剤、展着剤、生産に使用する農具及び資材(育苗箱など)の殺菌・消毒剤など

注1：共同負担金(薬剤散布)及び航空防除賃は、農薬代も含め「6 賃借料及び料金」の該当費目に記入してください。

注2：除草剤等農薬入りの肥料は「2 肥料費」の「その他」に記入してください。

- ・食用米のみの使用分を記入する場合は、100（%）としてください。
- ・食用米以外の使用分を含めて記入する場合には、機械等の使用時間や作付面積の割合を目安に記入してください。

4 光熱動力費

当年産の食用米生産のために使用した光熱動力について記入してください。

資 材 名 等		数 量	単 位	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
動 力 燃 料	重 油	万 千 百 十	L	万 千 百 十	
	軽 油		L		
	灯 油		L		
	ガ ソ リ ン		L		
	潤 滑 油		L		
	混 合 油		L		
電 力 料			-		
そ の 他 (水道料、木炭などの燃料)			-		
自 給		万 千 百 十			

使用した自給の
資材名と数量を記
入してください。

- ・食用米のみの使用分を記入する場合は100（%）としてください。
- ・食用米以外の使用分を含めて記入する場合には、作付面積の割合を目安に記入してください。

5 諸材料費

当年産の食用米生産のために使用した諸材料について記入してください。

「購入・その他」については、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

資 材 名 等		数 量	単 位	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
購 入	育苗用土（素土含む。）	万 千 百 十	kg	万 千 百 十	
	そ の 他 (計)				
自 給		万 千 百 十			

使用した自給の
資材名と数量を記
入してください。

諸材料には、育苗箱マット、あぜ波板、ビニール・シート（償却資産に属する建物（育苗ハウス等）のビニール張り替え費用については、建物費の修繕費に計上）、なわ、バインダー用結束ひも等が入ります。

- ・食用米のみの支払分を記入する場合は、100（%）としてください。
- ・食用米以外の支払分を含めて記入する場合には、機械等の使用時間や作付面積の割合を目安に記入してください。

6 賃借料及び料金

当年産の食用米生産のために支払った賃借料や料金について記入してください。
 なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

料 金 名 等		数 量	単 位	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
				万 千 百 十	
共同 負担 金	薬 剤 散 布		—		
	共 同 施 設		—		
	共 同 苗 代		—		
	農 機 具 借 料		—		
	航 空 防 除 賃	ha	a		
	賃 耕 料		a		
	は 種 ・ 田 植 賃		a		
	収 穫 請 負 わ せ 賃		a		
	も み す り ・ 脱 穀 賃	kg			
	ラ イ ス セ ン タ ー 費	kg			
	カ ン ト リ ー エ レ ベ ー タ ー 費	kg			
そ の 他	(計)		—		
			—		
			—		
			—		

- 注1： 共同負担金（薬剤散布）及び航空防除賃は、農薬代も含めて記入してください。
 2： ライスセンター、カントリーエレベーター等に委託しており、その委託料金に包装荷造り費が含まれる場合、包装荷造り費を除いて記入してください。

【牛乳生産費調査の場合】

【3】調査対象畜の生産に使用した資材等

1 購入飼料

1年間に調査対象畜に給与した購入飼料について、給与数量及び購入金額を記入してください。
(自給飼料は、8ページに記入してください。)

- ・「数量」、「金額」に調査対象畜への給与分のみを記入する場合には「100」としてください。
- ・調査対象畜以外への給与分を含めて記入する場合には、次のとおり牛の飼養頭数割合を目安に調査対象畜の負担割合を記入してください。

$$\text{調査対象畜負担割合} = \frac{\text{調査対象畜の飼養頭数}}{\text{全体の飼養頭数}} \times 100$$

区 分		数 量				単 位	金 額 (円)				調査対象畜 負担割合
		万	千	百	十		万	千	百	十	
穀 類	大 麦										
	そ の 他 の 麦										
	とうもろこし										
	大 豆										
	飼 料 用 米										
	その他の穀類										
ぬ か ・ ふすま類	ふ す ま										
	米 ・ 麦 ぬ か										
	そ の 他 の ぬか・ふすま類										
植 物 性 か す 類	大 豆 油 か す										
	ビートパルプ										
	そ の 他 の 植物性かす類										
配 合 飼 料											
T M R (粗飼料、濃厚飼料、ミネラル等の混合飼料)											
牛 乳 脱 脂 乳											
い も 類 及 び 野 菜 類											
わ ら 類	稲 わ ら										
	その他のわら類 (麦わら等)										
生 牧 草											
乾 牧 草	ハイキューブ										
	その他の乾牧草										
サイレージ	い ね 科 (稲発酵粗飼料を除く。)										
	稲発酵粗飼料										
	そ の 他 の サイレージ										
上 記 以 外 の 購 入 飼 料											

【3】調査対象畜の生産に使用した資材等（続き）

2 自給飼料

(1) 家畜に給与する目的で栽培した作物

家畜に給与する目的で栽培し、1年間に調査対象畜に給与した自給飼料について、給与数量を給与形態別（生牧草、乾牧草、サイレージ）に記入してください。また、自給飼料の生産状況には、作付面積、収穫量及び給与割合を記入してください。

【調査対象畜負担割合について】
 ・「数量」に調査対象畜への給与分のみを記入する場合には「100」としてください。
 ・調査対象畜以外への給与分を含めて記入する場合には、次のとおり年の飼養頭数割合を目安に調査対象畜の負担割合を記入してください。

$$\text{調査対象畜負担割合} = \frac{\text{調査対象畜の飼養頭数}}{\text{全体の飼養頭数}} \times 100$$

収穫量は、収穫時の重量（乾燥等の調整をする前の生重量）です。

区分	自給飼料の例示	生牧草 (生の状態で給与するもの)		乾牧草 (乾燥させて給与するもの)		サイレージ (発酵させて給与するもの)		左記の牧草の生産状況		
		数量	単位	数量	単位	数量	単位	作付面積	収穫量	単位
デントコーン										
イタリアンライグラス										
いね科										
稲発酵粗飼料	WCS：ホールクroppサイレージ									
その他	オーチャードグラス、チモシー、ライ麦、文ん麦等のいね科の牧草									
いね科が主	オーチャードグラス、チモシー等のいね科牧草がメインのまぜまき牧草									
その他	アルファルファ等のまめ科牧草がメインの、又はいね科とまめ科の折半の牧草									
その他の牧草	アルファルファ、クローバー等のまめ科の牧草、樹料かぶ、家畜ビート等									
穀類	とうもろこし、小麦、大豆、飼料用米等の穀類									
いも類及び野菜	かんしょ、いもづる等									
野生草	採草地等の耕地以外の土地から収穫し、生のまま給与するもの									
野乾草	採草地等の耕地以外の土地から収穫し、乾燥させて給与するもの									
放牧時間 (放牧場)	放牧場における放牧時間		時間							

(2) 家畜に給与する目的以外で栽培した作物

食用等の家畜に給与する目的以外で栽培し、1年間にたまたま調査対象畜に給与した作物について、給与数量を記入してください。

「家畜に給与する目的以外で栽培する作物」の給与例
 ・販売目的で栽培した小麦をたまたま調査対象畜に給与
 ・食用目的で栽培したさつまいもをたまたま調査対象畜に給与 など

作物名 (具体的に記入)	数量	単位	調査対象畜負担割合

生産した牧草のうち、調査対象畜に給与した牧草の割合を記入してください。

・自給飼料の全量を調査対象畜に給与した場合には「100」としてください。
 ・調査対象畜以外にも給与した場合には、年の飼養頭数割合を目安に調査対象畜への給与割合を記入してください。
 ・調査対象畜に給与するほか、販売（又は譲渡）した場合には、数量のうち調査対象畜への給与分の割合を記入してください。

【3】調査対象畜の生産に使用した資材等（続き）

3 種付料

(1) 種付けに支払った料金を記入してください。（精液代、種付料等）

黒毛和種の種付け（F1）や黒毛和種の受精卵移植（ET）を含みます。

種付料金 (円) 万 千 百 十

(2) 自家で飼育する種雄牛による延べ種付回数を記入してください。

延べ種付回数 (回) 万 千 百 十

4 敷料費

(1) 購入

1年間に使用した購入敷料の金額を記入してください。
 なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。
 また、敷料を物々交換により入手した場合は、交換した品目名と数量を記入してください。

区分	金額(円)	調査対象畜 負担割合
計	万 千 百 十	%
稲わら		
おがくず		
麦わら		
乾牧草		
その他		

物々交換した場合		
品目名 (具体的に記入)	数量	単位
	万 千 百 十	

・「金額」に調査対象畜への使用分のみを記入する場合には「100」としてください。
 ・調査対象畜以外への使用分を含めて記入する場合には、牛の飼養頭数割合を目安に調査対象畜の負担割合を記入してください。

(2) 自給

1年間に使用した自給敷料の数量を記入してください。
 「資材名」欄は具体的に記入してください。

資材名(具体的に記入)	使用数量	単位	調査対象畜 負担割合
	万 千 百 十		%

6 獣医師料及び医薬品費

1年間に調査対象畜の治療や衛生管理のために支払った料金等を記入してください。
 なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

区分	金額(円)	調査対象畜 負担割合	獣医師料及び医薬品費の例示
計	万 千 百 十	%	
獣医師料			獣医師に支払った診療代 (投薬、注射等の代金を含む。)
疾病共済掛金			家畜共済掛金のうち「疾病傷害共済掛金」(病傷部分)
医薬品費			牛に直接使用した医薬品及び衛生薬品
その他医療費等			上記以外の医療・衛生費、倉庫の消毒剤、ミルクカーの洗剤費用等

・「金額」に調査対象畜の支払い分のみを記入する場合には「100」としてください。
 ・調査対象畜以外への支払い分を含めて記入する場合には、牛の飼養頭数割合を目安に調査対象畜の負担割合を記入してください。

8 草地費（草地開発事業の負担金、土地改良事業の負担金）

1年間に草地開発や土地改良のために支払った負担金及び償還金を合わせて記入してください。

草地開発事業の負担金（円）				土地改良事業の負担金（円）							
草地造成事業		草地整備事業		事業番号（ ）		事業番号（ ）		事業番号（ ）			
万	千	百	十	万	千	百	十	万	千	百	十

① ほ場整備事業、② 農地開発事業、③ かんがい排水事業、④ 農道（牧道）整備事業、⑤ その他の整備事業

（論点）

- a これらの調査事項については、それぞれ具体的にどのような結果の利活用を想定して設定しているのか。また、それは、農業経営を取り巻く環境変化に適切に対応するものとなっているか。
- b これらの調査事項については、現在の日誌類への記入においても、記入を求めているものか。これまでは、区分した記入を求めていなかったものの、今回、新たに把握することとした事項はないか。また、これまでの記入に当たって、記入負担が重い、あるいは記入が困難なことなどから、把握が低調となっている調査事項はないか。
- c 当該農畜産物の生産において、他の農畜産物の生産との兼用で当該資材を使用している場合、その使用割合を把握するに当たって、作付面積や飼養頭数等を目安として把握する方法は適切か。

（回答）

- 1 aの各調査事項については、現行調査においても把握しており、生産費を構成する要素として、各要素の増減の分析等を経て行政価格の算定や、コスト低減の進捗状況分析等に利用されている実態等を踏まえれば、いずれも不可欠な事項である。
- 2 また、bの各調査事項については、調査対象品目の生産に通常投入されるもの（費用）として設定しているところであり、報告者にとっては容易に判断可能と考えていることから、把握が困難な事項等はないものと判断している。
- 3 なお、cの同一資材を複数の農産物等の生産に使用した場合の使用割合の把握方法については、作付面積割合や飼養頭数割合によって把握する方法が、報告者にも分かりやすい方法であるとともに、効率的な把握方法であると認識している。

(論点)

d 資材名等を記入する欄について、不足した場合は、どのように対応するのか。

(回答)

- 1 資材等の把握については、数量、金額及び負担割合の欄に色付けしている(計)等の欄に記入してもらうことを基本としているが、報告者の記入のし易さ等を考慮して、各資材の内訳として商品名で記入することも可能としているところである。
- 2 この内訳の記入欄については、例えば肥料について多くの商品が出回っているが、通常、一つの作物に対して使用する資材は限定され、調査票で示した記入欄で対応可能と考えている。
- 3 なお、調査票の配付・説明時において、(計)欄への記入でなく内訳欄への記入を希望する報告者であって記入欄が不足することが明らかな場合等においては、同一ページを別途配付して記入してもらうことを考えている。

(論点)

e これらの調査事項について、調査結果の利活用や報告者負担の軽減、調査結果の正確性の確保等の観点から、改善の余地はないか。

(回答)

- 1 本調査事項については、調査対象品目の生産に直接関わる内容であり、調査項目も必要最小限にとどめていることから、記入負担が重い、あるいは記入が困難な事項とは考えておらず、現時点において改善の必要性はないと認識している。
- 2 なお、今回の見直しについて、その実施状況を踏まえ、2020年農林業センサス結果を反映した次回の見直しに際して、更なる検討を行って参りたい。

(キ) 物件税及び公課諸負担等を把握する調査事項【全ての生産費調査票】

農畜産物を生産する農業経営体（個別経営体及び組織法人経営体）における当該農畜産物の生産に係る負担金の実態を明らかにするため、①物件税、②公課諸負担、③土地改良区費及び水利費等、④消費税、⑥借入金（買掛未払金を含む。）及び支払利子、⑦出荷に要した経費を把握する調査事項を再編する。

【米生産費調査（個別経営体用）の場合】

1 物件税

1年間に負担した食用米生産に係る物件税について記入してください。

区 分	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
固定資産税（建物）	万 千 百 十	
固定資産税（農機具）		
不動産取得税 （土地以外）		
自動車取得税		
水利地益税		
都市計画税 （土地以外）		
共同施設税		

・食用米のみの負担分を記入する場合は100（%）としてください。
・食用米以外の負担分を含めて記入する場合には、物件税の種類に応じて次を目安に記入してください。

固定資産税（建物）、不動産取得税、水利地益税及び都市計画税：**使用面積割合**

固定資産税（農機具）、自動車取得税、共同施設税：**機械等の使用時間割合**

注：固定資産税、不動産取得税及び都市計画税は土地に係るものを除いて記入してください。

2 公課諸負担

1年間に負担した食用米生産に係る公課諸負担について記入してください。

区 分	金 額 (円)	食用米 負担割合 (%)
集落協議会費 （地域集落等の会費）	万 千 百 十	
農業協同組合費		
農事実行組合費 （稲作部会等の会費）		
農業共済組合賦課金		

・食用米のみの負担分を記入する場合は100（%）としてください。
・食用米以外の負担分を含めて記入する場合には、公課諸負担の種類に応じて次を目安に記入してください。

集落協議会費、農業協同組合費、農事実行組合費：**農業収入全体のうち、食用米の収入が占める割合**

農業共済組合賦課金：**作付面積割合**

【5】土地改良及び水利費

当年産の食用米生産のために負担した土地改良区費及び水利費等について記入してください。
 なお、土地改良区費については、事業種類別の負担金額を記入してください。

1 土地改良区費

事業種類	食用米作付ほ場負担金額（円）				食用米負担割合（%）				
	維持負担金		償還金						
ほ場整備事業	万	千	百	十	万	千	百	十	
農地開発事業									
かんがい排水事業									
農道整備事業									
その他（整地、表土扱いのない事業）									

2 水利費等

費用名	食用米作付ほ場負担金額（円）	食用米負担割合（%）
水利組合費	万 千 百 十	
揚水ポンプ組合費		

・食用米のみの負担分を記入する場合は、100（%）としてください。
 ・食用米以外の負担分を含めて記入する場合には、農業収入全体のうち、食用米の収入が占める割合を目安に記入してください。

・食用米のみの生産に関係する金額を記入する場合は、100（%）としてください。
 ・食用米以外の金額を含めて記入する場合には、その用途に応じた使用割合を目安に記入してください。

【6】借入金（買掛未払金を含む。）及び支払利子

当年産の食用米生産のための借入金及び支払利子について記入してください。
 なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

資金名（用途）	調査開始時未償還残高（円）	支払利子額（円）	食用米負担割合（%）
短期借入金	万 千 百 十	万 千 百 十	
（計）			
長期借入金	万 千 百 十	万 千 百 十	
（計）			
買掛未払金	万 千 百 十	万 千 百 十	

注：土地の取得に関する借入金を除いて記入してください。

【子牛生産費調査の場合】

【5】消費税

消費税申告書により申告した調査対象畜分の消費税額を記入してください。

区分	金額（円）	調査対象畜負担割合
消費税（納付額）	万 千 百 十	%

【7】出荷に要した経費

1年間に子牛を出荷するために使用した資材等の金額を記入してください。

区 分	金額、時間				出荷に要した経費の例示	
材 料 (円)		万	千	百	十	出荷に使用したガソリン代、資材（手綱、鼻木等）の購入代金 等
料 金 (円)						出荷作業を依頼した場合の料金、共同出荷における運搬費の負担金 等
労働時間 (時間)					時間	子牛を販売する際の家畜市場等の販売先までの運搬に要した時間

(論点)

- a これらの調査事項については、それぞれ具体的にどのような結果の利活用を想定して設定しているのか。また、それは、農業経営を取り巻く環境変化に適切に対応するものとなっているか。
- b これらの調査事項については、現在の日誌類への記入においても、記入を求めているものか。これまでは、区分した記入を求めていなかったものの、今回、新たに把握することとした事項はないか。また、これまでの記入に当たって、記入負担が重い、あるいは記入が困難なことなどから、把握が低調となっている調査事項はないか。
- c 当該農畜産物の生産において、他の農畜産物の生産と兼用している場合、その使用割合を把握するに当たって、使用面積割合等を目安として把握する方法は適切か。

(回答)

- 1 aの各調査事項については、現行調査においても把握しており、調査対象品目を生産するために用いた機械等固定資産の物件税（固定資産税）や公課諸負担、土地改良のために要した費用の負担金、借入金の支払利子等、いずれも生産費を構成する要素として必要な事項である。
「消費税」（納付額）及び「出荷に要した費用」については、畜産物生産費におけるコストの一部とみなして行政部局に提供しているところであり、行政ニーズ上必要な事項である。
- 2 また、bの各調査事項については、調査対象品目の生産に通常発生するもの（費用）として設定しているところであり、報告者にとっては容易に判断可能と考えていることから、把握が困難な事項等はないものと判断している。
- 3 なお、cの同一の費用が複数の農産物等の生産に関係する場合の使用割合の把握方法については、年間の使用面積割合や農機具の使用時間割合等によって把握する方法が、報告者にも分かりやすい方法であるとともに、効率的な把握方法であると認識している。

(論点)

d これらの調査事項について、調査結果の利活用や報告者負担の軽減、調査結果の正確性の確保等の観点から、改善の余地はないか。

(回答)

- 1 本調査事項については、調査対象品目の生産に直接関わる内容であり、調査項目も必要最小限にとどめていることから、記入負担が重い、あるいは記入が困難な事項とは考えておらず、現時点において改善の必要性はないと認識している。
- 2 なお、今回の見直しについて、その実施状況を踏まえ、2020年農林業センサス結果を反映した次回の見直しに際して、更なる検討を行って参りたい。

(ク) 建物及び構築物の所有状況等を把握する調査事項【全ての生産費調査票】

農畜産物を生産する農業経営体（個別経営体及び組織法人経営体）における当該農畜産物の生産のために使用した建物及び構築物の所有状況等を明らかにするため、①建物及び構築物の所有状況、②自動車の所有状況、③農業機械の所有状況、④農具の購入費等を把握する調査事項を再編する。

【米生産費調査（個別経営体用）の場合】

【7】建物及び構築物（土地改良施設を含む。）の所有状況

食用米生産のために使用した建物及び構築物の所有状況について記入してください。
なお、1年間で新たに取得（新築）した場合は、該当建物等の「名称等」欄に「食用米負担割合」欄に記入してください。

修繕費には、次のような費用を記入してください。

- ・倉庫の屋根の修理、壁の塗り替え費用
- ・倉庫ハウスのビニールの張り替え費用
- ・建物の電灯や配線の交換費用
- ・防風網や支柱の修繕費用 など

・食用米のみに使用した場合は、100（%）としてください。
・食用米以外の作物へ共通して使用した場合には、使用面積割合を目安に記入してください。

耐用年数は、中古で取得した場合のみ記入してください。

番号	名称等	種類コード	新古区分 新築 中古 (年)	耐用年数 (年)	取得年月		取得価額 (円) <small>購入金額から補助金を控除した額を記入してください。</small>	農業経営基礎 強化準備金 (円) <small>建物等の取得のために取 り崩した準備金の額を記入 してください。</small>	修繕費 (円) <small>当年の当該建物等の修繕 費を記入してください。</small>	保険料 (円) <small>当年の当該建物等の 実費保険料を記入して ください。</small>	食用米 負担 割合 (%)	年内異動状況	
					年 (西暦)	月						異動 コード	異動に伴う発生金額 (円) <small>(売却金額、取り崩しの金額)</small>
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													

種類コード	
1	住宅
2	事務所
3	納屋・倉庫
4	作業場
14	橋梁
15	コンクリートけい
16	暗きよ排水施設
17	客土

構築物コード	
(1 住宅) ~ (13 その他の建築物)	
1	木造
2	合成樹脂造
3	鉄筋コンクリート
4	コンクリートブロック
5	鉄骨造
6	木造モルタル
7	金属
8	その他
(14 橋梁) ~ (31 その他の構築物)	
1	コンクリート
2	金属
3	木造
4	れんが、石、ブロック
5	合成樹脂
6	塩化ビニール
7	その他

異動コード	
1	取り崩し
2	部分取り壊し
3	売却

【8】自動車（自動二輪・三輪を含む。）の所有状況

食用米生産のために使用した自動車等の所有状況について記入してください。
なお、1年間で新たに取得した場合は、該当自動車等の「名称等」欄に「食用米負担割合」欄に記入してください。

修繕費には、次のような費用を記入してください。

- ・自動車（バイクを含む。）の修繕や整備費用、部品代、車検料のうち整備費用、自動車付属品
- ・バイク用バッテリー・補充液
- ・洗車代、リサイクル料金 など

自動車保険料には、任意保険（車高分を含む。）の掛金を記入してください。

・食用米のみに使用した場合は、100（%）としてください。
・食用米以外の作物へ共通して使用した場合には、使用時間割合を目安に記入してください。

耐用年数は、中古で取得した場合のみ記入してください。

番号	名称等	種類コード	新古区分 新築 中古 (年)	耐用年数 (年)	取得年月		取得価額 (円) <small>購入金額から補助金を控除した額を記入してください。</small>	修繕費 (円) <small>当年の当該自動車等の 修繕費を記入して ください。</small>	自動車保険料 (円) <small>当年の当該自動車 等の保険料を記 入してください。</small>	自動車・ 軽自動車税 (円) <small>当年の当該自動車 等の自動車税又 は軽自動車税を記 入してください。</small>	当年、車検を受けた自動車等 について記入してください。		食用米 負担 割合 (%)	年内異動状況	
					年 (西暦)	月					自動車重量税 (円)	自賠責保険 (円)		異動 コード	売却金額 (円) <small>(廃棄（無償譲渡を含む。）し た場合は、「0」を記入)</small>
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															

種類コード	
1	貨物自動車
2	その他の自動車

型式コード	
(1 貨物自動車)	
1	軽自動車
2	普通自動車（タンク式）
3	普通自動車（タンク式以外）
(2 その他の自動車)	
1	軽自動車
2	普通自動車
3	自動二輪・三輪

異動コード	
1	売却
2	廃棄等

【9】農業機械（生産管理機器を含む。）の所有状況

くわ類・かま類の農具、作業着・軍手等の農業被服については、13ページに記入してください。

食用米生産のために使用した農業機械、パソコンやコピー機等の生産管理機器の所有状況について記入してください。
なお、1年間で新たに取得した場合は、当該機械や機器の「名称等」欄～「食用米負担割合」欄に記入してください。

修繕費には、次のような費用を記入してください。
・農業機械の修繕、整備費用、部品代
・パソコン等の修繕費用、部品代 など

・食用米のみに使用した場合は、100（%）としてください。
・食用米以外の作物へ共通して使用した場合には、使用時間割合を目安に記入してください。

耐用年数は、中古で取得した場合のみ記入してください。

番号	名称等	種類コード	型式コード	新旧区分 新品 中古	耐用年数 (年)	取得年月		取得価額 (円) <small>購入金額から補助金を引いた額を記入してください。</small>	農業経営基礎 強化準備金 (円) <small>農業機械の購入のために 取り崩した準備金の額を記入 してください。</small>	修繕費 (円) <small>当年の当該農業機械 や生産管理機器の修繕 費を記入してください。</small>	保険料 (円) <small>当年の当該農業 機械の保険料を記 入してください。</small>	軽自動車税 (円) <small>当年の当該 軽自動車 の軽自動車 税を記入し てください。</small>	食用米 負担割合 (%)	年内異動状況	
						年 (西暦)	月							異動 コード	売却金額 (円) <small>廃棄（無償譲渡を含む。）し た場合は、「0」を記入し てください。</small>
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															

種類コード		型式コード		異動コード	
1 電動機	108 バイナリー	(4) 乗用トラクター	(20) 自走型コンバイン	1 売却	2 廃棄等
2 電動機	20 自走型コンバイン	1 2.0馬力未満	1 3条刈以下		
3 歩行用トラクター	21 普通型コンバイン	2 2.0～5.0馬力未満	2 4条刈以上		
4 乗用トラクター	29 脱穀機	3 5.0馬力以上	(31) 乾燥機		
12 電熱育苗機	31 乾燥機	(13) 田植機	1 静置式		
13 田植機	32 もみすり機	1 2条植	2 循環式		
15 揚水ポンプ	36 その他の農機具	2 3～5条植			
17 動力噴霧機	57 パソコン	3 6条植			
18 動力撒粉機	58 その他の生産管理機器				

【10】農具の購入費等

当年産の食用米生産のために使用したくわ類やかま類、コピー用紙等の購入費等について、記入してください。
なお、内訳欄を記入する場合、「計」欄の記入は不要です。

・食用米のみに使用した場合は、100（%）としてください。
・食用米以外の作物へ共通して使用した場合には、使用面積割合を目安に記入してください。

名称等	金額（円）	食用米 負担割合 (%)	内容 例示
(計)			
農具			
・			
農業被服			【農具の購入費】 ・くわ類、かま類、シャベル類、ホース、じょうろ、防除ネット、防鳥ネット等の購入費
等の購入費			【農業被服の購入費】 ・作業着、軍手、ゴム長靴等の農作業用の衣類の購入費

名称等	金額（円）	食用米 負担割合 (%)	内容 例示
(計)			
生産管理関係の費用			【購入費】 ・コピー用紙、プリンター、トナー等の消耗品の購入費 ・農業経営に係る事務用紙、消耗品（筆記用具、帳簿、ノート、電卓等）の購入費 【技術習得に係る費用】 ・研修、集会等への参加料（受講料）、交通費 ・営農、技術習得等に関する専門書の購入費 【電話代・通信費】 ・スマートフォン通信料

(論点)

- a これらの調査事項については、それぞれ具体的にどのような利活用を想定して設定しているのか。また、それは、農業経営を取り巻く環境変化に適切に対応するものとなっているか。
- b これらの調査事項については、現在の日誌類への記入においても、記入を求めているものか。これまでは、区分した記入を求めていなかったものの、今回、新たに把握することとした事項はないか。また、これまでの記入に当たって、記入負担が重い、あるいは記入が困難なことなどから、把握が低調となっている調査事項はないか。
- c 当該農畜産物の生産において、他の農畜産物の生産と兼用している場合、その使用割合を把握するに当たって、使用面積割合等を目安として把握する方法は適切か。

(回答)

- 1 aの各調査事項については、現行調査においても把握している。
このうち、建物及び構築物・自動車・農業機械の所有状況については、それぞれの減価償却費、修繕費及び保険料等を把握するためのものであり、前年の所有状況等をプレプリントした調査票を使用し、報告者の負担軽減を図っている。
また、農具の購入費については、購入金額が10万円未満の小農具等の費用を把握するためのものである。
- 2 また、bの各調査事項については、調査対象品目の生産に通常使用する資産として設定しているところであり、報告者にとっては容易に判断可能と考えていることから、把握が困難な事項等はないものと判断している。
- 3 なお、cの同一の費用が複数の農産物等の生産に関係する場合の使用割合の把握方法については、建物の使用面積割合や農機具の使用時間割合等によって把握する方法が、報告者にも分かりやすい方法であるとともに、効率的な把握方法であると認識している。

(論点)

- d これらの調査事項について、調査結果の利活用や報告者負担の軽減、調査結果の正確性の確保等の観点から、改善の余地はないか。

(回答)

- 1 本調査事項については、調査対象品目の生産に直接関わる内容であり、調査項目も必要最小限にとどめていることから、記入負担が重い、あるいは記入が困難な事項とは考えておらず、現時点において改善の必要性はないと認識している。
- 2 なお、今回の見直しについて、その実施状況を踏まえ、2020年農林業センサス結果を反映した次回の見直しに際して、更なる検討を行って参りたい。

【(ケ) 土地の面積及び地代を把握する調査事項【全ての生産費調査票】】

農畜産物を生産する農業経営体（個別経営体及び組織法人経営体）における農畜産物の生産のために作付け・使用した土地の面積等の実態を明らかにするため、①所有地の面積、②借入地の面積及び地代・賃借料を把握する調査事項を再編する。

【麦類生産費調査（個別経営体用）の場合】

【11】土地の面積及び地代

当年産の対象品目の麦の収穫が終わる前の1年間に、
 ・対象品目の麦のみ作付けた団地（ほ場）においては、100（%）としてください。
 ・対象品目の麦以外の作物も作付けた団地（ほ場）においては、対象品目の麦とそれ以外の作物との過去1年間における収入（作付地ごとではなく全体の収入）の割合を記入してください。
 【例】A団地（ほ場）に米と小麦を作付けており、過去1年間における作物別の収入が米400万円、小麦400万円の場合、この作付地の収入割合は次のとおりです。
 小麦400万円÷（米400万円+小麦400万円）=50（%）

1 所有地

(1) 作付地

当年産の対象品目の麦生産のために作付けた所有地について記入してください。
 なお、団地（ほ場）ごとに田積のどちらかに○を付けてください。

番号	団地（ほ場）名	土地合積面積 (a)	作付実面積 (a)	対象品目負担割合 (%)	地目 田 畑
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

注：途中で廃耕があった場合は、廃耕分も含めた当初の作付実面積を記入してください。

当年産の対象品目の麦の収穫が終わる前の1年間に、
 ・対象品目の麦のみを使用した場合は、100（%）としてください。
 ・対象品目の麦以外の作物にも使用した場合は、使用面積の割合を目安に記入してください。

(2) 建物敷地等

当年産の対象品目の麦生産のために使用した作付地以外の所有地について記入してください。

番号	使用地名	総面積 (a)	使用面積 (a)	対象品目負担割合 (%)
1				
2				
3				

2 借入地

(1) 作付地

当年産の対象品目の麦生産のために作付けた借入地について記入してください。
 なお、団地（ほ場）ごとに田積のどちらかに○を付けてください。

番号	団地（ほ場）名	土地合積面積 (a)	作付実面積 (a)	支払地代 (円)	対象品目負担割合 (%)	地目 田 畑
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

注：途中で廃耕があった場合は、廃耕分も含めた当初の作付実面積を記入してください。

(2) 建物敷地等

当年産の対象品目の麦生産のために使用した作付地以外の借入地について記入してください。

番号	使用地名	総面積 (a)	使用面積 (a)	支払賃借料 (円)	対象品目負担割合 (%)
1					
2					
3					

【牛乳生産費調査の場合】

【13】地代（所有地及び借入地）

1年間に調査対象畜及び自給牧草の生産のために使用した土地（所有地、借入地）について記入してください。
 なお、所有地については「実面積」を、借入地については「実面積」及び「支払地代」を記入してください。

1 所有地

ほ場名	ほ場の例示	実面積	負担割合 (%)	
			調査対象畜	自給牧草
建物敷地	畜舎、納屋、飼料倉庫及び牛乳の冷却槽などの建物及び構築物の敷地			
運動場	パドック、けい牧（柵のないところに牛を綱でつないで飼うこと。）に利用した土地			
牧草栽培	牧草地及び飼料作物を栽培した耕地			
放牧地	耕地以外で調査対象畜の放牧に利用した土地			
採草地	耕地以外で過去1年間に調査対象畜用の野草を採草した土地			

2 借入地

ほ場名	実面積	支払地代 (円)	負担割合 (%)	
			調査対象畜	自給牧草
建物敷地				
運動場				
牧草栽培				
放牧地				
採草地				

・「実面積」又は「支払地代」に調査対象畜への使用分のみを記入する場合には「調査対象畜」を「100」、自給牧草への使用分のみを記入する場合には「自給牧草」を「100」としてください。
 ・調査対象畜、自給牧草、その他へ共通して使用している場合には、それぞれの使用面積の割合を目安に「調査対象畜」又は「自給牧草」の負担割合を記入してください。

(論点)

- a これらの調査事項については、それぞれ具体的にどのような利活用を想定して設定しているのか。また、それは、農業経営を取り巻く環境変化に適切に対応するものとなっているか
- b これらの調査事項について、現在の日誌類への記入においても、記入を求めているものか。これまでは、区分した記入を求めていなかったものの、今回、新たに把握することとした事項はないか。また、これまでの記入に当たって、記入負担が重い、あるいは記入が困難なことなどから、把握が低調となっている調査事項はないか。
- c 当該農畜産物の生産において、他の農畜産物の生産と兼用している場合、その使用割合を把握するに当たって、収入割合や使用面積割合を目安として把握する方法は適切か。

(回答)

- 1 aの各調査事項については、現行調査においても把握しており、自作地や借入地の地代の把握に不可欠なものである。また、前年の面積況等をプレプリントした調査票を使用し、報告者の負担軽減を図っている。
- 2 また、bの各調査事項については、調査対象品目の生産に通常使用・発生するもの(費用)として設定しているところであり、報告者にとっては容易に判断可能と考えていることから、把握が困難な事項等はないものと判断している。
- 3 なお、cの同一の費用が複数の農産物等の生産に関係する場合の使用割合の把握方法については、当該土地から生産された農産物の収入割合や作付面積割合によって把握する方法が、報告者にも分かりやすい方法であるとともに、効率的な把握方法であると認識している。

(論点)

- d これらの調査事項について、調査結果の利活用や報告者負担の軽減、調査結果の正確性の確保等の観点から、改善の余地はないか。

(回答)

- 1 本調査事項については、調査対象品目の生産に直接関わる内容であり、調査項目も必要最小限にとどめていることから、記入負担が重い、あるいは記入が困難な事項とは考えておらず、現時点において改善の必要性はないと認識している。
- 2 なお、今回の見直しについて、その実施状況を踏まえ、2020年農林業センサス結果を反映した次回の見直しに際して、更なる検討を行って参りたい。

(コ) 作業別労働時間を把握する調査事項【全ての生産費調査票（個別経営体、組織法人経営体の別及び農畜産物別に応じた調査事項を設定）】

農畜産物を生産する農業経営体（個別経営体・組織法人経営体）における農畜産物の生産に係る作業種類別の労働時間の実態を明らかにするため、農産物に係る生産費調査票においては、①個別経営体における家族及び雇用者の作業種類別労働時間、②組織法人経営体における構成員及び雇用者の作業種類別労働時間、③支払賃金等を、また、畜産物に係る生産費調査票においては、定型作業及び定型作業以外の作業種類別の作業時間、②支払賃金を把握する調査事項を再編する。

【米生産費調査（個別経営体用）の場合】

【12】 作業別労働時間

当年産の食用米生産における作業時間について記入してください。
作業時間は食事などを除いた実労働時間とし、最初の作業までの準備から農具の片付けまでの時間や帰への往復時間も含めてください。
また、複数の作業を同時に行った場合は、要した時間を作業数で等分し、それぞれの作業へ等分した時間を記入してください。

1 家族労働時間

入別・作業別に労働時間を記入してください。

作業種類	内容例示	氏名		氏名		氏名		氏名		氏名		氏名		雇用労働時間 男	雇用労働時間 女	作業種類	内容例示
		性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
種子	選種、浸種、消毒、催芽														種子	選種、浸種、消毒、催芽	
育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業														育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業	
耕整地	乾起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ作り														耕整地	乾起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ作り	
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入														基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入	
直まき	直まき、覆土に係る労働														直まき	直まき、覆土に係る労働	
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗間片付け														田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗間片付け	
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤投入肥料の散布														追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤投入肥料の散布	
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき														除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき	
管理	けい町の草刈り、けい町の除草剤散布、水管理														管理	けい町の草刈り、けい町の除草剤散布、水管理	
防除	農業散毒（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策														防除	農業散毒（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策	
刈取	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲むら処理														刈取	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲むら処理	
乾燥	乾燥、もみすり（注）、もみ及び玄米運搬														乾燥	乾燥、もみすり（注）、もみ及び玄米運搬	
生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記載（帳簿申告は含まない。）														生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記載（帳簿申告は含まない。）	
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等														間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等	

注：「もみすり・調製作業」と「包装荷造り作業」が機械化一貫作業の場合、包装荷造りに要した作業時間を除いて記入してください。

2 雇用労働時間

雇用者の男女別・作業別に労働時間を記入してください。

作業種類	内容例示	氏名		氏名		氏名		氏名		氏名		氏名		雇用労働時間 男	雇用労働時間 女	作業種類	内容例示
		性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)	性別	(年齢)				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
種子	選種、浸種、消毒、催芽														種子	選種、浸種、消毒、催芽	
育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業														育苗	床作り、は種、施肥、かん水等の育苗作業	
耕整地	乾起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ作り														耕整地	乾起し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ作り	
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入														基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入	
直まき	直まき、覆土に係る労働														直まき	直まき、覆土に係る労働	
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗間片付け														田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗間片付け	
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤投入肥料の散布														追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤投入肥料の散布	
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき														除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき	
管理	けい町の草刈り、けい町の除草剤散布、水管理														管理	けい町の草刈り、けい町の除草剤散布、水管理	
防除	農業散毒（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策														防除	農業散毒（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策	
刈取	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲むら処理														刈取	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲むら処理	
乾燥	乾燥、もみすり（注）、もみ及び玄米運搬														乾燥	乾燥、もみすり（注）、もみ及び玄米運搬	
生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記載（帳簿申告は含まない。）														生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記載（帳簿申告は含まない。）	
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等														間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等	

3 食用米の田植、収穫期間

当年産の田植、収穫を開始した日と終了の日を記入してください。

区分	開始日	終了日
田植	月 日	月 日
収穫	月 日	月 日

4 支払賃金

当年産の食用米生産のために雇用者に支払った労賃（現物支給も含む。）を記入してください。

区分	支払賃金（円）	食用米 負担割合（%）
男		
女		

・食用米生産のための労働に支払った賃金を記入する場合は、「100（%）」としてください。
・食用米生産以外の労働への支払いも含めて記入する場合には、労働時間の割合を目安に記入してください。

【米生産費調査（組織法人経営体用）の場合】

【12】作業別労働時間

当年産の食用米生産における主な作業時間（受託による作業時間は含まれません。）について記入してください。
 作業時間は食事などを除いた実労働時間とし、最初の作業までの準備から農具の片付けまでの時間やほ場への往復時間も含めてください。
 また、複数の作業を同時に行った場合は、要した時間を作業数で等分し、それぞれの作業へ等分した時間を記入してください。

1 構成員（年齢階層別）・雇用別の労働時間

作業ごとの延べ作業時間とその作業に携わった延べ人数を記入してください。
 なお、構成員の労働時間については、構成員の年齢階層（65歳未満、65～69歳、70～74歳、75歳以上）別に記入してください。

作業種類	内容例示	構成員の年齢階層								雇用		作業種類
		65歳未満		65～69歳		70～74歳		75歳以上		合計		
		延べ作業時間	延べ人数	延べ作業時間	延べ人数	延べ作業時間	延べ人数	延べ作業時間	延べ人数	延べ作業時間	延べ人数	
種子予措	選種、浸種、消毒、催芽											種子予措
育苗	床作り、ほ種、施肥、かん水等の育苗作業											育苗
耕起整地	覆土し、秋起し、耕うんから代かき、あぜ作り											耕起整地
基肥	肥料の運搬、施肥、客土の搬入											基肥
直まき	直まき、覆土に係る労働											直まき
田植	苗取り・運搬、田植、浮苗直し、補植、苗間片付け											田植
追肥	肥料の運搬、施肥、除草剤散布肥料の散布											追肥
除草	本田の中耕除草、本田の除草剤散布、ひえぬき											除草
管理	けい町の草刈り、けい町の除草剤散布、水管理											管理
防除	農業散布（除草剤除く。）による防除、鳥獣害対策											防除
刈取脱穀	稲刈り、稲の結束、稲架掛け、脱穀、稲わら処理											刈取脱穀
乾燥	乾燥、もみすり（注）、もみ及び玄米運搬											乾燥
生産管理	共同作業打合せ、技術習得、簿記記載（税務申告は含まない）											生産管理
間接労働	建物、農機具等の修繕、購入資材の調達等											間接労働

注：「もみすり・調製作業」と「包装荷造り作業」が機械化一貫作業の場合、包装荷造りに要した作業時間を併せて記入してください。

2 食用米の田植、収穫期間

当年産の田植、収穫を開始した日と終了した日を記入してください。

区分	開始日	終了日
田植	月 日 日	月 日 日
収穫	月 日 日	月 日 日

3 支払賃金

当年産の食用米生産のために雇用者に支払った労賃（現物支給も含む。）を記入してください。

区分	支払賃金（円）	食用米負担割合（%）
合計		

・食用米生産のための労働に支払った賃金を記入する場合は、100（%）としてください。
 ・食用米生産以外の労働への支払いも含めて記入する場合には、労働時間の割合を目安に記入してください。

【牛乳生産費調査の場合】

【12】作業別労働時間

1 酪農に関する定型作業

農業従事者ごとに、上段に1日当たりの平均作業時間を記入し、下段に1年間の従事日数を記入してください。

「その他の飼育作業」とは、搾乳牛に関する以下の作業をいいます。
 ・種付け、分べん関係作業
 ・手入・運動・放牧作業
 ・きゅう肥の処理（切り返し、加工）作業
 ・衛生管理（殺虫剤の散布等）

氏名	性別	年齢	家族・雇用	飼料の調理・給与・給水	敷料搬入・きゅう肥搬出	搾乳・牛乳処理・運搬	その他の飼育作業
	男/女		家族/雇用	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日
	男/女		家族/雇用	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日
	男/女		家族/雇用	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日
	男/女		家族/雇用	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日
	男/女		家族/雇用	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日
	男/女		家族/雇用	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日	時間: 分 日

2 酪農に関する1以外の作業

「作業名」欄の（ ）に具体的な作業名を記入した上で、農業従事者ごとに年間の作業時間を記入してください。

ここでは、集会出席・技術習得・簿記記帳等の生産管理の時間、自給飼料（牧草等）の生産、建物・自動車・農機具の修繕の作業時間等を記入してください。

氏名	性別	年齢	家族・雇用	作業名	作業名	作業名	作業名	作業名
				()	()	()	()	()
	男:女		家族:雇用	時間	時間	時間	時間	時間
	男:女		家族:雇用					
	男:女		家族:雇用					
	男:女		家族:雇用					

3 支払賃金

雇用者（ヘルパー、研修生等）に支払った賃金（現物支給も含む。）を男女別に記入してください。

区分	金額（円）	負担割合（％）	
		調査対象畜	自給牧草
男	万 千 百 十		
女			

- ・「支払賃金」に調査対象畜の飼養のための支払い分のみを記入する場合には「調査対象畜」を「100」、自給牧草の生産のための支払い分を記入する場合には、「自給牧草」を「100」としてください。
- ・調査対象畜、自給牧草、その他の雇用者への支払い分をまとめて記入する場合には、それぞれの労働時間の割合を目安に調査対象畜又は自給牧草の負担割合を記入してください。

（論点）

- a これらの調査事項については、それぞれ具体的にどのような利活用を想定して設定しているのか。また、それは、農業経営を取り巻く環境変化に適切に対応するものとなっているか。
- b これらの調査事項については、現在の日誌類への記入においても、記入を求めているものか。これまでは、区分した記入を求めていなかったものの、今回、新たに把握することとした事項はないか。また、これまでの記入に当たって、記入負担が重い、あるいは記入が困難なことなどから、把握が低調となっている調査事項はないか。

（回答）

- 1 aの各調査事項については、現行調査においても把握している。

調査対象品目の生産に投下した労働時間を家族・雇用別及び作業別に把握し、調査期間中の天候や災害等の状況等を踏まえた費用や労働時間の分析・検証のためにも、作業別の労働時間の把握は不可欠である。

また、雇用に対する支払い賃金の把握は、生産費を構成する要素としての労働費の把握に必要な事項である。

- 2 また、bの各調査事項については、調査対象品目の生産に通常発生する作業（時間）として設定しているところであり、調査票に直接記入することが困難な報告者に対しては、別途「労働時間等整理補助表」を用いて記入するなどの対応を講じており、把握が困難な事項等はないものと判断している。

(論点)

- c 個別経営体、組織法人経営体で雇用者の労働時間の把握内容が異なるのはなぜか。また、米生産費統計調査票のみ、田植・収穫期間を把握する理由・必要性は何か。

(回答)

- 1 組織法人経営体の労働時間については、現行調査においても当該経営体が整理している労務管理の記録から把握しているが、従事する構成員及び雇用者の人数が多く、個別経営体と同様の事項で整理することは集計等の負担が大きいため、雇用についても男女計の時間把握としており、この考え方を踏襲したものとしている。
なお、個別経営体については、人数が少ないことから、逆に集計する労力を軽減するため、現行調査の把握内容を踏襲したものとしているところである。
- 2 米生産費における田植・収穫期間の把握については、大規模経営になるほど、特に作業が集中する田植えや収穫労働について、品種の特性を活かした生産によりその時期をずらすことが可能となるなど、労力の分散を図ることが重要である。
このため、行政部局における効率的な生産体系の検討に資するため、品種別の作付面積と合わせて、田植・収穫期間を把握するものである。

(論点)

- d 本調査事項について、調査結果の利活用や報告者負担の軽減、正確性の確保等の観点から、改善の余地はないか。

(回答)

- 1 本調査事項については、調査対象品目の生産に直接関わる内容であり、調査項目も必要最小限にとどめていることから、記入負担が重い、あるいは記入が困難な事項とは考えておらず、現時点において改善の必要性はないと認識している。
- 2 なお、今回の見直しについて、その実施状況を踏まえ、2020年農林業センサス結果を反映した次回の見直しに際して、更なる検討を行って参りたい。

(サ) 搾乳牛等の所有状況及び乳用牛の月齢別の飼育経費を把握する調査事項【牛乳生産費調査票】

牛乳を生産する農業経営体における搾乳牛の所有状況等の実態を明らかにするため、①農家団体コード、②搾乳牛の取引状況等、③乳用牛（後継牛）の月齢別の飼育経費等を把握する調査事項を新設・再編する。

【牛乳生産費調査票の場合】

【11】 搾乳牛等の所有状況

1 農家団体コード（牛トレサ関係）

牛トレーサビリティに登録している「農家団体コード」を記入してください。
複数の農家団体コードに登録している場合には、全てを記入してください。

農家団体コード1	農家団体コード2	農家団体コード3
.....

(論点)

- a これらの調査事項については、それぞれ具体的にどのような利活用を想定して設定しているのか。また、それは、農業経営を取り巻く環境変化に適切に対応するものとなっているか。
- b これらの調査事項については、現在の日誌類への記入においても、記入を求めているものか。これまでは、区分した記入を求めていなかったものの、今回、新たに把握することとした事項はないか。また、これまでの記入に当たって、記入負担が重い、あるいは記入が困難なことなどから、把握が低調となっている調査事項はないか。

(回答)

- 1 各調査事項については、現行調査においても把握している。

このうち、農家団体コードについては、全ての報告者で牛トレサ情報を利用して牛の異動情報等を把握するため、報告者が登録している農家団体コードにより（独）家畜改良センターが所管する「牛個体識別台帳データ」から牛の出生・死亡、異動等の情報を取得し、搾乳牛の取引状況にプレプリントした調査票を用いて、購入・売却等の別や取引金額等を報告者により記入してもらうこととしている。

この方法を採用することにより、報告者の記帳負担は大幅に軽減され、調査の効率化に効果があるものと考えている。

<参考>

「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法（平成15年法律第72号）」により、牛の異動等に関する情報は、遅滞なく、全て農林水産大臣に届け出ることが義務づけられている。

異動区分	届け出る者	届け出る事項
出生	牛の管理者	出生の年月日、雌雄の別、母牛の個体識別番号、管理者の氏名又は名称及び住所、飼養施設の所在地等【農林水産大臣は、当該届出に係る牛の個体識別番号を決定し通知】
譲渡し等	牛の管理者又は輸入者	当該牛の個体識別番号、譲渡し等の相手方の氏名又は名称及び当該譲渡し等の年月日等
譲受け等	譲受け等をした者	その氏名又は名称及び住所、当該牛の個体識別番号、譲受け等の相手方の氏名又は名称及び当該譲受け等の年月日、飼養施設の所在地等
死亡	牛の管理者	当該牛の個体識別番号、死亡の年月日等
とさつ	とさつした者	当該牛の個体識別番号、とさつの年月日、譲受け等の相手方の氏名又は名称等

また、乳用牛の月齢別の飼育経費については、牛乳生産費における搾乳牛の負担割合を算出するために必要な事項として把握している。

(論点)

c 本調査事項について、調査結果の利活用や報告者負担の軽減、正確性の確保等の観点から、改善の余地はないか。

(回答)

- 1 本調査事項については、調査対象品目の生産に直接関わる内容であり、行政データを最大限利用するとともに、記入項目も必要最小限にとどめていることから、記入負担が重い、あるいは記入が困難な事項とは考えておらず、現時点において改善の必要性はないと認識している。
- 2 なお、今回の見直しについて、その実施状況を踏まえ、2020年農林業センサス結果を反映した次回の見直しに際して、更なる検討を行って参りたい。